

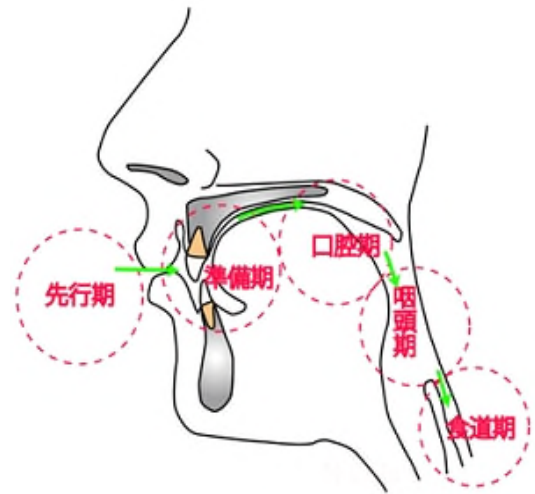


摂食・嚥下障害ってなに？



摂食嚥下とは、食べ物を認識して口腔内に取り込んで、咀嚼して飲み込む、という連続的な動作であり5つの段階に分けられます。

- ①目で見て食べ物を認知する(先行期)
- ②食べ物を口の中に入れよ(準備期)
- ③舌が食べ物を後ろ側に送り込む(口腔期)
- ④食べ物が咽頭を通過する(咽頭期)
- ⑤食べ物が食道を通過する(食道期)



摂食 嚥下障害とはこの5つのステージの1つまたは複数が何らかの原因で正常に機能しなくなった状態を

いいます。原因として最も多いのが脳梗塞などの脳血管障害ですが、高齢者においては、加齢による筋力低下、予備能力の低下を招き容易に摂食 嚥下障害を発症しやすくなります。

摂食 嚥下障害はただ単に障害の有無を診断するだけでなく、どこがどのように悪いかを調べる事が重要です。

摂食・嚥下障害の代表的な問題！！

- ご飯や水分がうまく食べられないことによる栄養状態の低下(低栄養・脱水)
- 気道に食べ物が入ってしまい肺炎になってしまう(誤嚥性肺炎)、窒息する
- ご飯が食べられないことによる食べる楽しみの喪失

脳梗塞から一命を取り留めてもご飯が食べられず痩せて生きる気力も失ってしまっただけでは何の意味もありません。症状の重さにもよりますが、正しい評価のもと必要で効果的なリハビリを行いましょ。高齢者一人ひとりの状態をしっかりと把握して、おいしく安全に食事を楽しめる工夫をしてください。



※当院では、「摂食機能療法」を行っております。

お気軽にご相談ください。

深川歯科医院 ☎018-827-4182

嚥下内視鏡検査 ～嚥下障害の検査法

深川歯科医院では、摂食嚥下障害の検査に内視鏡を用いた検査方法を導入しています。

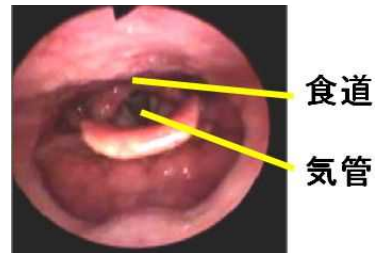
鼻から約3mmの内視鏡(カメラ)を挿入した状態で食べ物を摂取し、飲み込みの観察・評価をする方法です。所要時間は15分から30分です。

外来の診療室だけではなく、持ち運びができるため在宅や施設への訪問診療にも対応可能です。

咽頭(のど)・喉頭(喉仏)の粘膜を直視できるので、形態の評価や唾液・分泌物の貯留の有無が観察できます。食べる前から咽頭の中が汚れていたり、唾液や分泌物の貯留がある場合は、嚥下機能の低下が考えられます。

嚥下内視鏡検査はどこでも行える検査です。

最近よくムセたり、飲み込みのことが心配な方は、お気軽にご相談ください。



摂食機能訓練(間接訓練)

深川歯科医院では、摂食・嚥下障害がある人たちの機能回復を目指して機能訓練を行っています。姿勢の指導や間接訓練を行って機能獲得や回復、維持を目指しています。

主な機能訓練の内容

口腔体操・口腔ケア
あいうべ体操パタカラ体操
唾液腺マッサージ
頸部の運動・体位指導 等

